

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

「妊娠の異常の管理法に関する研究」

分担研究者	村田雄二	大阪大学医学部	教授
研究協力者	神崎 徹	大阪大学医学部	
	佐川典正	京都大学医学部	
	末原典幸	大阪府立母子保健総合医療センター	
	竹田 省	埼玉医科大学総合医療センター	
	豊田長康	三重大学医学部	

研究要旨 妊産婦死亡の主たる原因である分娩周辺の大量出血に対しては輸血が最も有効な治療法であり、いかに迅速に輸血に対応できるかが妊産婦死亡の回避につながる。昨年度までの調査では分娩周辺の大量出血の予測は困難で、いかに迅速に輸血を行えるかが母体救命の鍵と考えられた。本研究では産科臨床の場での輸血に対する対応状況を調査し、システム上の問題点を明らかにする。

A.研究目的

妊産婦死亡の主たる原因である分娩周辺の大量出血に対しては輸血が最も有効な治療法であり、いかに迅速に対応できるかが妊産婦死亡の回避につながると推測できる。産科臨床の場ではあらゆる血液型に対して 24 時間ベッドサイドに血液が確保されているとは限らず、ほとんどの施設が日赤を代表とする血液センターからの供給に頼っているのが現状である。

昨年度までの検討では、出血による妊産婦死亡の原因となる異常妊娠、特

に前置胎盤と常位胎盤早期剥離について着目し、その診断と大量出血の予測は全ての産科施設に求めることは現状では困難であることが判明した。また常位胎盤早期剥離は発症の予測すら困難である。

そこで分娩周辺の出血に対してはその予測よりもそれに対する対応が母体の救命につながると考えて、本研究は効率的で迅速な輸血の体制を確立するために、現状の輸血供給システムの問題点を明らかにすることを目的とした。

B.研究方法

アンケート調査を行い産科施設における輸血の準備状況を具体的に調査する。

調査内容は 1.施設の規模、2.年間輸血例数、3.輸血準備状況、4.輸血確保に必要な時間を骨子とする。施設の規模は限定せず診療所、総合病院を含める。輸血症例数では診断名と輸血量を調査するとともに、現場での問題点についても調査する。輸血準備状況では常備している血液の種類と量および検査部の協力状況、確保できる人員について調査する。4 の項目では最寄りの輸血センターまでの距離と交通状況について具体的な調査を行う。

調査対象施設は埼玉県、三重県、京都府、大阪府の 4 府県にある分娩を取り扱っている全ての施設とし、さらに日本産婦人科学会が指定する周産期管理登録病院にもあわせ調査を行う。

また上記 4 府県の日赤血液センターに対して、センターの所在地と血液在庫状況ならびに過去の血液供給実績を調査する。

C.研究結果

本調査により産科臨床現場での輸血準備状況が明らかにされると期待される。また今回調査する地域は大都市、大都市周辺近郊都市、過疎地域を含んでおり、得られる結果は日本のあらゆる

地域に適応できるものとなるであろう。

D.考察

調査結果を分析することにより、我が国における分娩周辺での輸血供給システムの問題が明らかにされ、それらの問題点に対応してより具体的な指針が導き出されるものと期待される。

E.結論

大量出血による妊産婦死亡を減少させるためには輸血供給システムの整備が急務で、本研究によりシステム整備のための提言が期待される。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究要旨 妊産婦死亡の主たる原因である分娩周辺の大量出血に対しては輸血が最も有効な治療法であり、いかに迅速に輸血に対応できるかが妊産婦死亡の回避につながる。昨年度までの調査では分娩周辺の大量出血の予測は困難で、いかに迅速に輸血を行えるかが母体救命の鍵と考えられた。本研究では産科臨床の場での輸血に対する対応状況を調査し、システム上の問題点を明らかにする。